

法から最新治療までを解説。再度、振り返りにて、講義を聞く生徒にしっかりと予防の意識づけを行い、そしてがんの早期発見・早期治療で9割の人が治ることを話して、最後にがん検診を受けることの重要性を話して締めくくられた。

教授にお聞きしたところ、昨年は定時制の学生さんが対象者で、既に社会経験者であることから、今回とは投げかけの言葉が少し異なる講義であったと聞く。

## 予防と検診・正しい知識と情報があれば、がんは怖いものではない

「大変わかりやすかった」とこの講義を受けた直後の感想を話すのは、高田高校1年生の西川蒼一朗さん。「がんの講演会を聞くのは初めてです。印象に残ったのは、がんになっても仕事を辞めずに治療できることと、抗がん剤治療の副作用に対するイメージが変わりました。副作用が辛くて入院しなくてはならないのは昔の話で、治療の幅が広がっていて、がんの怖さのイメージが随

分と軽減されました。正しい知識・情報を得ることができて本当に良かったです。自分の生活習慣を見直したいですね。ダラダラした生活はリスクがあり、規則正しい生活を心がけたいと強く思いました」と話してくれた。

武田教授は、大学にて学生に講義を行う教育者の立場とまた大学病院で実際に医療現場に精通する現役医師でもある。言葉のひとつひとつに命の重みがあり、医療のいろはを分かっている私でもスッと頭に言葉がはいる。高校生の西川さんも「がんの講義」を聞いて武田教授の言葉に感銘を受けた様子で、取材に対して積極的にお話をしてくれたことに感謝したい。出来れば将来の進路のひとつとして、これを機会に人類の為に「がんの研究」に進んで欲しいと切に願う。がんに対するイメージは、不治の病で抗がん剤治療に対しては、がんに効く前に自身の体が副作用の前に辛くて折れてしまいうテレビの中の主人公。しかし、10年ひと昔から今や医療は3年ひと昔と大きく飛躍している。お陰様で記者もこの3年程、コロナ禍ということもあり、健診をしても検診せずにはいた。塩について、塩分摂取による胃がんのリスクは2倍であると

いう教授の言葉を思い出して、以前よりかかりつけ医にすすめられていた胃カメラに血液検査を早々に行った。



高田高校 1年生 西川蒼一朗さん

- 奈良県立医科大学
- 奈良県立高田高校
- 奈良県教育委員会事務局

- 奈良県橿原市四条町840
- 奈良県大和高田市磯野東町6-6
- 奈良県奈良市登大路町30 奈良県庁内